

通常学級における適応が困難な児童生徒に対するスクールソーシャルワーカーの
支援の現状と課題
～スクリーニング会議を活用したスクールソーシャルワーカーによる
アセスメントの意義と可能性～

社会福祉学専攻 菅野 希

要 旨

2022 年文部科学省が行った全国調査において、学級担任等が「知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示す」と回答した児童生徒は、全国の小・中学生の 8.8%であるとされた。このような児童生徒に対して、「特別支援教育」が必要であるとし、特別支援教育を受ける児童生徒数は年々増加している。しかし、学校現場において適応困難な状態を一面的に「発達障害」と結び付け、特別支援教育において対応することは、社会的にはラベリングや排除につながり、また、子どもたちの背景にある貧困や虐待などの家庭環境や社会的な問題が見過ごされることにつながると考える。したがって、そのような問題が起こらないためにも、支援においては、その困難の背景を包括的に捉える SSWr のアセスメントが有効であると考ええる。また、SSWr のアセスメントに基づく支援は、文部科学省が推進するスクリーニング会議の活用によって意義が発揮できる可能性があると考ええる。

本研究では、通常学級における適応が困難な児童生徒に対する SSWr の支援プロセスを明らかにするとともに、スクリーニング会議を活用した SSWr によるアセスメントの意義と可能性について検討することを目的とし、宮城県及び仙台市の小・中学校において活動している SSWr に対し、質問紙調査及びインタビュー調査を行った。質問紙調査では、通常学級における適応が困難な児童生徒の支援の全体像とスクリーニング会議の活用に対する SSWr の認識や課題意識を把握した。また、インタビュー調査では、質問紙調査において同意を得られた SSWr に調査を実施し、その内容は M-GTA を用いて分析し、SSWr の支援プロセスを明らかにした。その上で、スクリーニング会議の活用に関する回答から抽出したキーワードを分類し、カテゴリー化した上で SSWr のアセスメントの意義と可能性について検討した。

その結果、通常学級における適応が困難な児童生徒に対するにおいて、SSWr のアセスメントにより、児童生徒を中心とした支援が行われていくこととその重要性が明らかになった。このことから、SSWr のアセスメントの意義が示されたとも考える。そして、通常学級における適応が困難な児童生徒に対し、SSWr の包括的なアセスメントに基づく支援を行うためには、①SSWr が支援チームの一員に位置づけられること、②学校と共にソーシャルワークプロセスに基づいた支援を行うことができること、③教員の主観ではなく、客観的なデータをもとに複数人によって支援の必要性が判断されること、が必要であることが明らかになった。

そのことにに対し、スクリーニング会議の活用は、通常学級における適応が困難な児童生徒に対し、SSWr の包括的なアセスメントに基づく支援を行う上での課題の解決につながる可能性があるとともに、SSWr のアセスメントの意義が発揮される可能性があることが示されたと考ええる。また、スクリーニング会議の導入を検討していくための課題として、SSWr がスクリーニング会議の目的を理解し、学校や地域のニーズや課題を把握した上で、ミクロ・

メゾ・マクロの視点を持ちながら SVr と共に教育委員会と議論していくことが必要であることが示されたと考える。